

女子大生における茶類飲料の嗜好性について

土屋 京子

A Study of Preference on the Tea Drinks at the Women's College Students

Kyoko TSUCHIYA

はじめに

私たちが生きていくために、食物は不可欠で、その食物の中には、食べる物（食べ物）と飲む物（飲み物）がある。飲み物で一番大切な水の他に、様々な嗜好飲料があるが、これらは、アルコールを1%以上含むアルコール飲料とアルコールを含まない非アルコール飲料に大別される¹⁾。アルコール飲料は酒類に属するもので、非アルコール飲料を原料別にみると、果実飲料、乳性飲料、米麴飲料、種実系飲料、芽葉系飲料、炭酸飲料、その他の飲料に分けられる²⁾。このうち芽葉系飲料とは、茶樹の若葉を加工したもの、すなわち茶を指し、さらに製造法により、不発酵茶（緑茶）、半発酵茶（ウーロン茶）、発酵茶（紅茶）に区別されている²⁾。この茶樹は東南アジアが原産のツバキ科の常緑低木で、主な産地は中国、日本、台湾、スリランカ、インドネシアなどで³⁾、日本でも茶畑をみかけることがある。そのため、茶は古くから日本人に馴染みがあり、実際に茶を飲んでいるものである。

最近、熱中症予防にも水分は欠かせずに摂ろうということはよく耳にすることであるが、確かにペットボトルや水筒に飲料を入れて持ち歩いている人は多い。本学の学生についても同様である。そこで、女子大生の好む飲料、特に茶類について本学学生にアンケート調査を実施し、その現状とそれらの嗜好性について検討した。また、紅茶については、結果に基づき官能検査も実施したので、合わせて報告する。

方法

1、アンケート調査

- (1) 対象：東京家政大学家政学部栄養学科、同短期大学部栄養科学生
- (2) 規模：209名（19～24歳）
- (3) 方法：質問紙調査法
- (4) 項目：①最も良く飲む飲料の種類
 - ②茶類を飲む頻度
 - ③最も良く飲む茶の種類
 - ④緑茶について（a 飲む頻度、b 利用方法 [入れ方、市販品等]、c 好み [好き嫌い]、d その理由）
 - ⑤ウーロン茶について（a 飲む頻度、b 利用方法 [入れ方、市販品等]、c 好み [好き嫌い]、d その理由）
 - ⑥紅茶について（a 飲む頻度、b 利用方法 [入れ方、市販品等]、c 好み [好き嫌い]、d その理由、e 最も好きな飲み方、f 知っているメーカーや店名、g 美味しいと思う商品名）
- (5) 回収率：100%

2、官能検査

- (1) 紅茶の入れ方の嗜好性（本学学生43名）
 - (2) 市販されている紅茶飲料の嗜好性（本学学生23名）
- どちらも、5段階評点法の嗜好型官能検査を実施した。

結果および考察

図1は最も良く飲む飲料を示したものである。全体の79%が茶類と答えており、飲料としては、水よりも茶類が多く選ばれていることがわかった。これは、水分補給は当然のことであるが、食事の時に一緒に飲む機会が多いのではないかと考えられる。現に調理学実習の授業時にも、日本料理では緑茶、西洋料理では紅茶、中国料理ではウーロン茶を出しているが、学生も好んで飲んでいることがわかる。

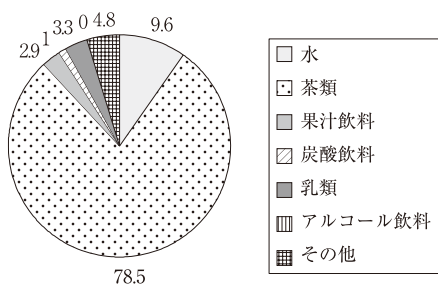


図1 最も良く飲む飲料 (%)

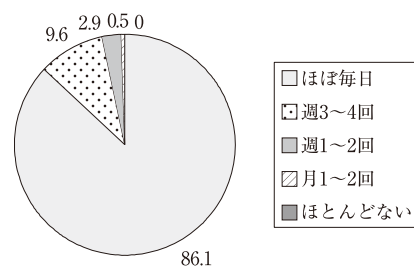


図2 茶類を飲む頻度 (%)

図2は茶類全般を飲む頻度を表したものである。全体の86%がほぼ毎日、茶を飲むという結果が出た。月1、2回やほとんど飲まない人はいず、最低でも週1回は飲んでいることがわかった。このことより、茶類を飲むことは学生の食事や生活に強く結び付いていることが示されたといえる。近年では、ペットボトルやパック製品などの種類も増え、自分で入れることなく、手軽に飲むことができる。また、健康に関するテレビ番組や雑誌の特集などで茶類がとりあげられること等も、飲む機会を増やしたと考えられる。

図3は最も良く飲む茶の種類を示したものである。緑茶が半分以上の52%を占め、ウーロン茶、紅茶と続いた。その他の中では麦茶と回答している者が多かった。日本では、古くから食事と一緒に、あるいは食後に茶を飲む習慣があるが、この時の茶は緑茶である。食事と共に紅茶を飲むことはあまりなく、どちらかという、紅茶だけまたは菓子と一緒に飲むというイメージの方が強いいため、緑茶が選ばれたのではないかと考えられる。

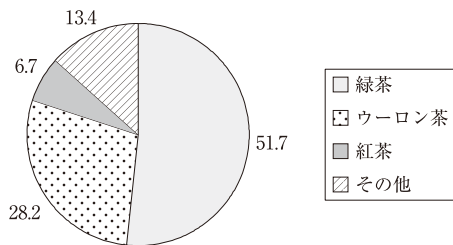


図3 良く飲む茶の種類 (%)

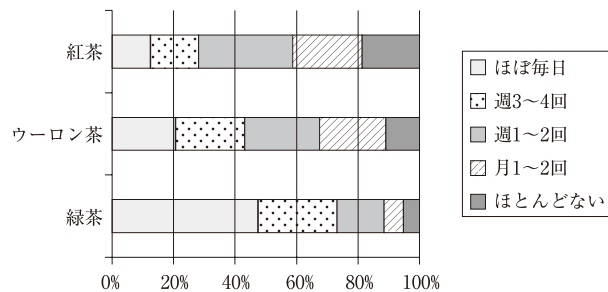


図4 3種の茶類を飲む頻度

図4は緑茶、ウーロン茶、紅茶を飲む頻度を表したものである。ほぼ毎日緑茶を飲む人が半数近い47%おり、このことから、毎日の食事と共に飲まれているのではないかと推察される。ウーロン茶は特出した頻度はなく、週1回飲む人もいれば、ほとんど飲まない人もいた。紅茶は週1回飲む人が多く、ほぼ毎日飲む人は3種の茶の中で最も少なかった。

図5は緑茶、ウーロン茶、紅茶の入れ方を示したものである。緑茶は急須で入れる方法が54%で最も多かったが、ペットボトルやパック製品等の市販品の利用も40%と多いことが示された。ウーロン茶の80%近くはペットボトル・パック製品を利用していた。紅茶をポットで入れる人は12%と少なく、60%以上が手軽なティーバッグを利用していた。ティーバッグは簡単に入れられ、茶葉に比べて使用後の処理も楽で、値段も安いこと等が女子大生にも親しまれている理由ではないかと考えられる。

図6は緑茶、ウーロン茶、紅茶の好き嫌いを表したものである。緑茶は90%近くが、ウーロン茶・紅茶も70%以上が好きと回答しており、本学の学生はどの茶も好きであることが示された。しかし、図4で示した飲む頻度では、ウーロン茶や紅茶は毎日飲んでいる訳ではない。このことより、茶類は好きだから毎日飲むことにはつながらず、好き嫌いはそれを飲む頻度に影響しないことがわかった。

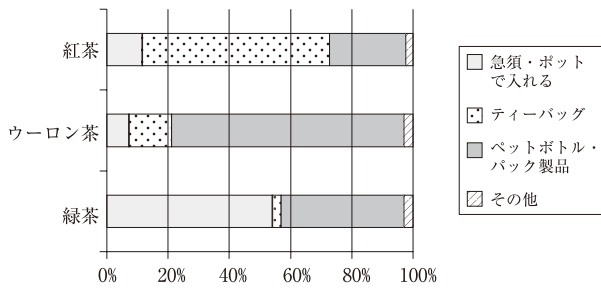


図5 茶類の入れ方

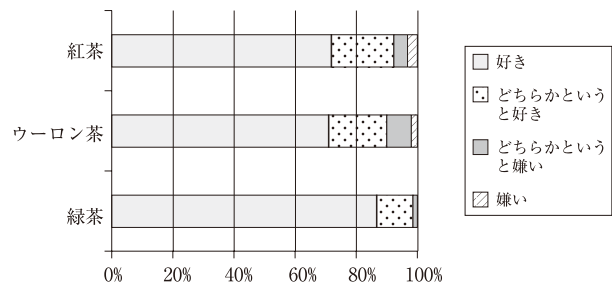


図6 茶類の好き嫌い

図7は緑茶、ウーロン茶、紅茶の好き嫌いの理由を示したものである。どの茶も好きな理由は味が好きで、特に緑茶は73%、ウーロン茶は56%と高い割合であった。次いで、ウーロン茶や緑茶は身体に良さそうだから好きという回答も多かった。紅茶は味が好きと同じくらいの割合で、香りが好きが44%で最も多い理由となり、女子大生には紅茶独特の香りが好まれたことがわかった。紅茶の中には、アールグレイやアップルティーのように、着香されたものがあり、フレーバーティーの種類も多い。これらが、茶本来の香りを持つものよりも好まれた理由の1つと考えられる。

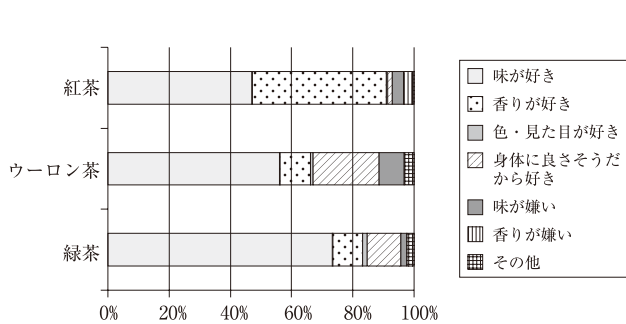


図7 好き嫌いの理由

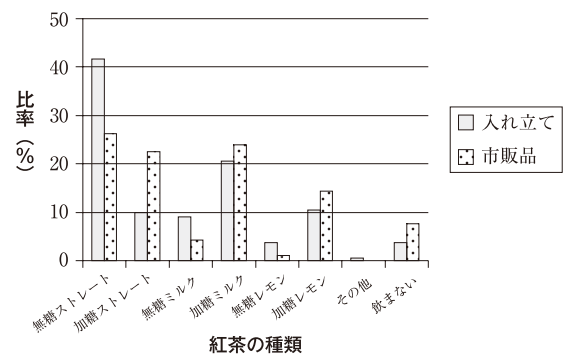


図8 良く飲む紅茶の種類

今回は3種類の茶の中で、特に紅茶についてさらに調べてみることにした。図8は最も良く飲む紅茶の飲み方を表したものである。自分で紅茶を入れたり喫茶店で注文する場合（入れ立て）、無糖ストレートティーが最も多く、次いで加糖ミルクティー、加糖レモンティーとなった。ペットボトルや缶・パック製品（市販品）では無糖ストレートティーの他に、加糖ストレートティー、加糖ミルクティー、加糖レモンティーが多かった。これらのことより、どちらもストレートティーは好まれており、ミルクティーやレモンティーにする時は加糖で甘くして飲むことがわかった。紅茶そのものに甘味はあまり感じられないが、市販されている製品類には甘いものが多いため、自宅や喫茶店でもミルクやレモンを入れる場合は、加糖にすることが多いことが示された。

図9は紅茶の茶葉やティーバッグを製造・販売しているメーカーや店名で知っているものの回答結果をまとめたものである。リプトンという答えが圧倒的で、全体の73%を占めた。次いで日東紅茶の15%で、それ以外には、キリン、レピシエ、ブルックリン等11社があげられた。リプトン

女子大生における茶類飲料の嗜好性について

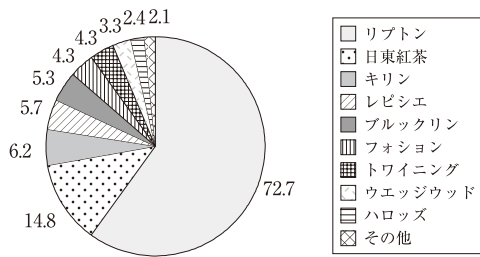


図9 知っているメーカー・店名 (%)

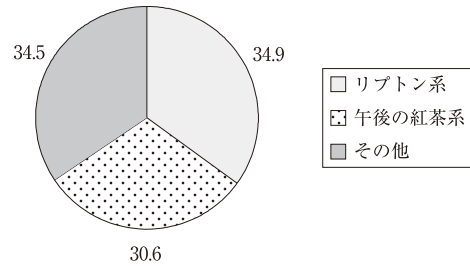


図10 好きな商品名 (%)

はティーバッグだけでなく、パック製品もあるので、馴染みがあるメーカーのようだ。

質問の最後に、今までに飲んだ紅茶飲料（紅茶のペットボトル、缶、パック製品）で美味しいと思った商品名の回答結果をまとめたのが図10である。リプトン系が35%、午後の紅茶系が31%、残りがその他になった。リプトンではレモンティーが最も多く、次いでミルクティーであった。アップルやピーチのフルーツティーも出現していた。午後の紅茶ではミルクティーが最も多く、次いでストレートティー、レモンティーであった。その他には、紅茶花伝やジャワティー、フォション等13品があげられた。それぞれの感じ方があるので、美味しいと思う商品名は様々で、もっと細かく分かれると思っていたが、回答が以外にまとまっていたので驚いた。これらのことより、本学の学生の嗜好性が似ていることが示された。

今回の調査では、紅茶はティーバッグで入れると回答した学生が多かったので、最も良く知られているメーカーのリプトンのティーバッグを用いて官能検査を実施した。試料は、A（90℃の湯に10秒間浸出したもの）、B（90℃の湯に1分間浸出したもの）、C（100℃の湯に10秒間浸出したもの）、D（100℃の湯に1分間浸出したもの）の4種類で、本学の学生43名にそれぞれの紅茶が好ましいかどうかを聞く嗜好型の官能検査⁴⁾にした。湯の温度はポットの保温温度の90℃と沸かし立ての2条件、浸出時間は多くの人が行っていると予想されるティーバッグを揺さぶる方法（10秒間）と製品外袋に記載されていた「1～1.5分」より1分を設定した。その結果を示したものが図11である。Bの90℃で1分間浸出したものが最も好まれ、AとDはどちらかというとは好ましくないという結果になった。これは沸かし立ての湯の温度よりは低い90℃の10秒では、香りや味がまだはっきりと感じられず、100℃で1分は、学生にとっては苦味が気になったことが好ましくないとされた原因

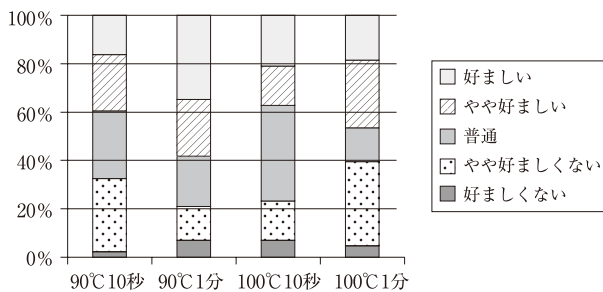


図11 紅茶の入れ方の評価

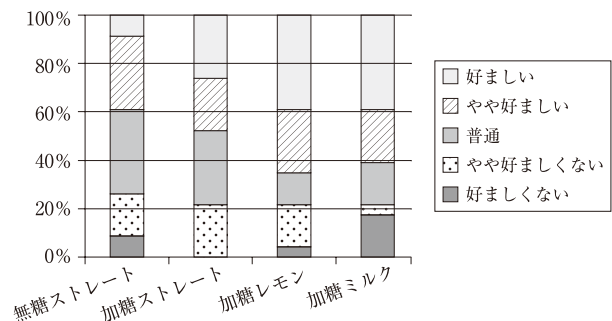


図12 紅茶の飲み方（種類）の評価

と考えられる。

また、市販されている紅茶飲料について、美味しいという回答が多かったリプトンの加糖ストレートティー、加糖レモンティー、加糖ミルクティーと、無糖ストレートティーの4種類について、本学学生23名にそれぞれの紅茶が好ましいかどうかを聞く嗜好型官能検査を行った。その結果を表したものが図12である。ストレートティーは糖の有無に関わらず普通の評価で、加糖レモンティーと加糖ミルクティーは好ましいという評価を得た。図8で示したアンケート調査の結果では、ストレートティーは好まれていたが、実際に飲んでみると紅茶の香りだけよりも、レモンやミルクの味が加わったものの方が、本学の学生には好まれていることがわかった。

おわりに

茶の種類は発酵の仕方により、不発酵茶、半発酵茶、発酵茶に分けられ、それぞれの茶はさらに細かく分類されているが、私たちが日常的に飲んでいるものは、そのうちの一部に過ぎない。また、茶の品質は水色（すいしょく）、味（渋味、うま味）、香気から判断される⁵⁾といわれているが、普段茶類を飲む時は、美味しいと思うが、ゆっくりと味わって飲む機会は少ない。今後は美味しさを味わう飲み方をしたい。

今回行った調査により、女子大生である本学の学生は、茶類は好きな飲料で、ほぼ毎日のように飲んでいることがわかった。それらが好きな理由は、緑茶やウーロン茶の味、紅茶の香りであった。嗜好品とは、栄養摂取を目的にしない⁶⁾好みのものである。摂らなければいけないものではないが、学生はほぼ毎日のように飲んでいる。これは、普段の食事や生活に潤いを与え豊かにするのは、必要なものであることを意味する結果と考えるものである。

参考文献

- 1) 芳本信子、新しい視点生きた知識 食べ物じてん、学建書院、2005、p.325.
- 2) 杉田浩一、平宏和、田島眞、安井明美編、日本食品大事典、医歯薬出版株式会社、2008、p.603.
- 3) 全国調理師養成施設協会編、調理用語辞典、調理栄養教育公社、1987、p.651.
- 4) 古川秀子、おいしさを測る、幸書房、1994、p.5.
- 5) 栄養学・食品学・健康教育研究会編、食品・栄養・健康用語辞典、1990、p.44.
- 6) 新村出編、広辞苑第六版、岩波書店、2008、p.1215.